

ネットワークアンケート ③2

糖尿病ネットワークを通して
医療スタッフに聞きました

Q. 歯周病対策について、糖尿病患者さんに説明や指導を行っていますか？

糖尿病の“第6の合併症”と言われる歯周病。歯周病にかかると、糖尿病の症状が悪化したり、血糖コントロールにも影響するので、日頃のチェックとケアが大切です。今回は、歯周病の知識や指導、ケアの状況についてお伺いしました。

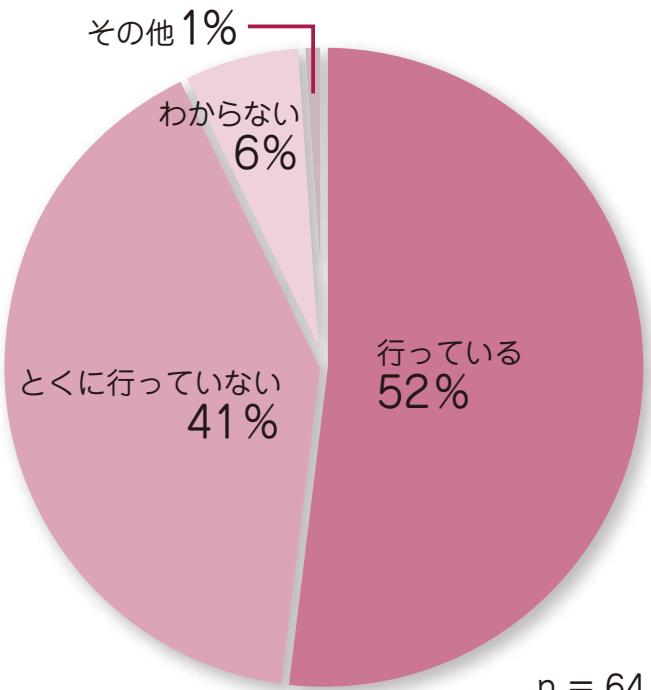
[回答数：医療スタッフ64名(医師10、看護師30、管理栄養士14、薬剤師4、臨床検査技師2など。うち日本糖尿病療養指導士29、糖尿病看護認定看護師4)、患者さんやその家族246名(病態/1型糖尿病88、2型糖尿病147、糖尿病境界型6、その他5、治療内容／食事療法179、運動療法148、飲み薬の服用125、インスリン療法139/重複回答有)]

約半数の医療スタッフが指導や説明を「行っている」と答えましたが、4割は「とくに行っていない」とのことでした。指導・説明の対象者を、「基本的に患者さん全員」とする方は28%、34%が「血糖コントロールのよくない方」、31%が「歯について相談してきた方」で、必要に応じて話をするのが一般的のようです。一方、糖尿病患者さんの歯周病の有無や既往を、どの程度把握しているかについては、4割はほとんど把握しておらず、把握していても「申告や相談があった患者さんのみ」とする方が約半数。患者さんが申し出ない限り、把握不可能であることがほとんどみられます。さらに、歯科医院との情報共有（連携）に

ついては、「行っている」と回答した方は約10%で、ほとんどが「行っていない」とのことでした。

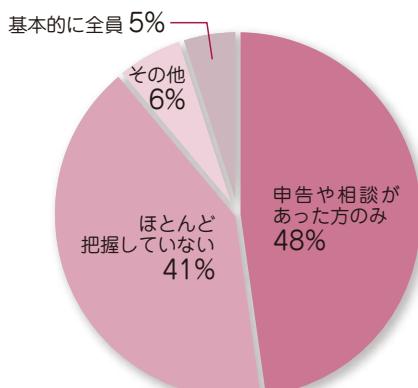
また、歯周病がみられる患者さんとしては、「血糖コントロールのよくない方」が75%と最も多く、「歯磨きをきちんと行っていない方」55%、「喫煙者、喫煙経験のある方」52%、「高齢の方」48%と続きました。

自由記述では、「ご本人にお任せしているのが現状。必要性は感じるが、歯周病の指導まで行きつかない」「他院ではどのように取り組んでいるのかを知りたい」「眼科との連携は、医師・コメディカルともに



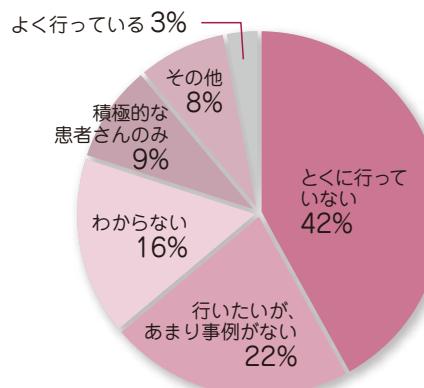
Q. 患者さんの「歯周病」の有無や既往を把握していますか？

(n=64)



Q. 貴院では、歯科医院と情報共有を行っていますか？

(n=64)



習慣になっているが、歯科との連携はほとんどなされていない、「糖尿病に理解のある歯科医院のリストを作ったり、歯科衛生士も糖尿病療養指導士の資格が取れるようになりといった環境整備が必要など、「行いたいけれど、できていない」という現状を訴えるコメントが多く寄せられました。

Q. 「歯周病」は、どのような患者さんに多い？

(複数回答可 n=64)

血糖コントロールのよくない方	75%
歯磨きをきちんと行っていない方	55%
喫煙者、喫煙経験のある方	52%
高齢の方	48%
罹病歴の長い方	39%
間食の多い方	25%
甘い物をよく食べる方	19%
ストレスの多い生活をしている方	11%
口呼吸をする方(口内が乾燥している)	11%
睡眠障害がある、睡眠不足が多い方	8%
歯ぎしりの癖がある方	6%
やわらかいものを好んで食べる方	5%
その他	11%